

平成20年（オ）第1790号

平成20年（受）第2175号

決 定

当事者の表示 別紙当事者目録記載のとおり

上記当事者間の東京高等裁判所平成19年（ネ）第5840号損害賠償請求事件について、同裁判所が平成20年9月4日に言い渡した判決に対し、上告人兼申立人らから上告及び上告受理の申立てがあった。よって、当裁判所は、次のとおり決定する。

主 文

本件上告を棄却する。

本件を上告審として受理しない。

上告費用及び申立費用は上告人兼申立人らの負担とする。

理 由

1 上告について

民事事件について最高裁判所に上告をすることが許されるのは、民訴法312条1項又は2項所定の場合に限られるところ、本件上告理由は、違憲及び理由の不備をいうが、前提を欠くか、その実質は事実誤認又は単なる法令違反を主張するものであって、明らかに上記各項に規定する事由に該当しない。

2 上告受理申立てについて

本件申立ての理由によれば、本件は、民訴法318条1項により受理すべきもの

とは認められない。

よって、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

平成21年2月27日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官 古 田 佑 紀

裁判官 今 井 功

裁判官 中 川 了 滋

裁判官 竹 内 行 夫

これは正本である。

同日同庁

裁判所書記官 我妻 容子

